



相生市

深山農園株式会社



Staff Interview

芦田 智也さん(写真左)

アパレルの仕事からいちご栽培に転向したところ、蜂アレルギーを発症。施設園芸で探していたところ、しいたけと出会いました。品質を落とさず、どんな要望も満たすしいたけを作りたいです。

岡田 大輝さん(写真右)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科出身です。このしいたけを食べたことがあり、求人を見て「おいしかったことや!」と転職を決めました。自分なりに考え、栽培を極めるのが夢です。

恵まれた立地を活かし 大きく肉厚なしいたけを栽培

夏にはホタルが舞い、秋にはコウノトリが飛来する相生市北部で1965年に創業。初代が原木栽培を、二代目がハウスでの菌床栽培を始め、代表取締役の深山陽一朗さんが引き継ぎました。100%国産木材のおがくずに瀬戸内の牡蠣(カキ)殻粉末を加えたブロック型の菌床に植菌。1つの菌床から出る芽の数を少なくすることで、肉厚で、大きなしいたけになります。ハウスは現在17棟、収穫量は1日最大1万個。朝夕2回収穫し、関西圏の百貨店や直売所などへ出荷。通常は産業廃棄物となる収穫後の菌床は、野菜作りの堆肥やカブトムシの資材などとして再利用されています。

事業内容

しいたけ栽培・加工・販売



おもな作物

「瀬戸内しいたけ」というブランド名で展開しています。大きくて、肉厚、ジューシーなしいたけが特長です。

わたしたちの思い

大切なお客さまに「最高」のしいたけをお届けできるよう、日々努力・工夫しています。食を通じて人と人をつなぎ、たくさんの笑顔を咲かせたいと思っています。

こだわりPOINT

菌床製造から栽培、販売までを一貫して行っています。しいたけの88%は水分で、水質が決め手。ハウスの先に民家はなく、清らかな湧き水でゆっくり、じっくり育てます。



DATA

所在地	〒678-0092 相生市矢野町小河854
TEL	0791-29-0013
FAX	0791-25-7126
HP	https://fukayaman.com/
設立	2016年
従業員数	28人



Top Message

しっかり考え、改善・改革。
機会にできないことを人の手で

祖父の代から、しいたけ一筋。マニュアル化、機械化を目指していますが、相手は生きもの。そう簡単ではありません。改善や改革を続けるプロセスを大切に、しっかり考え、機械にできないことをやってみてほしい。



代表取締役
深山 陽一朗さん



赤穂市

株式会社デイリーエッグ




事業内容
養鶏業、鶏卵販売、液卵・肥料の製造販売

おもな産品
「ゴマ海草たまご」「赤穂の源」などのパック詰め各種鶏卵を1日約150t生産。ほかに液卵(液卵黄・液卵白など)、鶏ふん(袋詰発酵鶏ふん)など

わたしたちの思い
多様化する日本の食生活の中にあって、鶏卵は欠かすことのできない食産物です。安全で高品質な卵を安定的に供給するという使命感をもって、おいしさの笑顔あふれる食卓に貢献します。

こだわりPOINT
岡山農場(育成・育雛)、赤穂農場(集卵・出荷)、堺工場(液卵製造)の3拠点を有し、ヒナから成鶏、集卵、加工に至るまで一貫した生産システムを可能にしています。



Staff Interview

矢野 俊輔さん(写真左)

営業、需給調整、資材、採用・広報、物流を担当。業務の幅が広く大変な事もありますが、他部署や社外の方と接することでいろんな事を学ぶことがやりがいの1つです。採用や広報活動では一期一会を大切に、デイリーエッグって面白くていい会社だと思ってもらえるよう、真摯に向き合うように心掛けています。経験問わず活躍できる職場なので、生き物好き、卵好きな方大歓迎です。

榎木(さわらぎ) はるかさん(写真右)

農業高校と大学農学部で学んだ知識を生かしたいと思い、2023年に入社しました。JGAPの取得・更新に関わる審査対応や書類の管理を担当しています。会社説明会への参加や後輩との面談を行うなど、人と関わる仕事も増えました。2025年に第一種衛生管理者の資格を取得するなど、学びを重ねながら、日々やりがいを感じています。

一貫した生産システムが生み出す 信頼のクオリティ 赤穂本社農場はJGAP認証取得農場

「デイリーエッグ」赤穂本社農場では、自然に囲まれた近代的な鶏舎で約170万羽の鶏を育てています。いち早くインライン方式を導入。鶏舎内で自動的に集められた卵はコンベアーで直接GPセンター(洗卵選別工場)に送られ、自動ヒビ検知機などによる厳格な品質管理が行われています。岡山農場ではヒナから成鶏まで育成。優秀な「安心卵」を生み出すため、鶏舎の衛生管理と鶏の健康検査を徹底しています。同社では育雛から出荷まで一貫したトレーサビリティを確立。また、2015年には三重県伊賀市にグループ会社「伊賀産業株式会社」を設立し鶏舎での集卵・出荷をスタート。東海・中部エリアにも「安全・安心」そして「新鮮」な卵を食卓に届けています。

DATA

所在地 〒678-1185 赤穂市東有年1650
TEL 0791-49-2858
FAX 0791-49-3668
HP <http://dailyegg.com/>
(インスタグラム)
https://www.instagram.com/dailyegg_tamago/

設立 1960年
従業員数 180人(全拠点正社員数)




Top Message

生まれたてのクオリティが基本です

私たちは健康な鶏を管理し、新鮮な卵を毎日生産しています。飼養管理の結果に鶏たちも正直に反応し、そこに生き物相手の仕事ならではの面白さや魅力があります。飼養管理技術を重ねることで、さまざまな分野においてオールラウンドに自分を進化させることができる職場です。デイリーエッグで進化する養鶏業界の最先端と一緒に歩みましょう。



赤穂本社農場 生産部部長代理
長尾 智さん



赤穂市

株式会社丸尾牧場



Staff Interview

阿山 裕樹さん

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業、佐用町の牧場勤務を経て2015年入社。乳房炎を早期に見えたり、治療できた時に達成感があります。家族的な雰囲気があり、従業員を大切にできる職場でとても働きやすいです。

DATA

所在地 〒678-0171
赤穂市高野281-1

T E L 0791-48-7023

F A X 0791-48-7646

H P <http://gelatoshoptete.jp/>
(直営ジェラート店)

設立 2010年(創業1956年)

従業員数 26人



事業内容

乳牛肥育、生乳販売



おもな産品

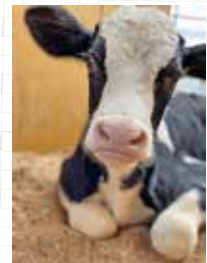
年間約6000tの生乳を出荷。その乳質は、2021年「ハイクオリティミルクアワード」最優秀賞を受賞しています。牧場直営ジェラート店「TETE」を赤穂市中広にオープンし、6次化にも力を入れています。

わたしたちの思い

牛の健康を第一に考え、牛のストレスを減らすことが高品質な牛乳につながると確信しています。そのため、そのための努力を惜しまず日々取り組んでいます。

こだわりPOINT

牛にとって、慣れ親しんだ限られた人による飼育もストレスを減らす効果があります。効率を上げながら高品質な牛乳の生産を増やすことが目標です。



安心な牛乳を食卓に。 牛の健康を第一に、効率化を考え抜き 高品質な生乳を生産

赤穂市高野(第1牧場)と、赤穂市大津(第2牧場)の2か所で酪農を経営。整然と配置され、清潔な牛舎には、搾乳牛約640頭、育成牛約400頭が飼育されています。丸尾牧場が大切にしていることは、牛にストレスを与えない衛生的な環境。牛舎を夏の暑さから守る濡れないミスト(細霧)やふん臭を消臭する「エポリオン」を活用しています。牛のストレスを減らす自動搾乳機「ミルキングパーラー」・「搾乳ロボット」とともに新技術を導入することで、質の高い生乳づくりを実現しています。また、コスト削減のために、牧草(36ha)や飼料米(7ha)を自給栽培。良質な飼料も牛の健康に一役買っています。

Top Message

夢をもつ人を応援したい。
高品質を旗印に経営の効率化と酪農家の結束を

代表取締役 丸尾 健治さん

安心・安全な高品質生乳の安定供給を確立するために、志をひとつにする県内の酪農家たちと共に2018年に「ハイクオリティミルク農業協同組合」を設立しました。「酪農産業を盛り上げたい」そんな夢をもつ若者を歓迎します。



赤穂市

有限会社米ログリーナーセリー



事業内容

花苗、野菜苗、米の生産・販売・卸、苗の直営店・農家レストランの経営

おもな作物

花苗、野菜苗合わせて200品目を年間250万本生産。ねぎ、たまねぎ苗同1,100万本。米はコシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリなど約30t。さつまいも約5t など。

わたしたちの思い

お客様や取引先から「どんな苗でも揃っている米ログリーナーセリー」と言われるように、多種多様な苗をひとつひとつ同じ品質で生産できるように従業員全員で努力しています。

こだわりPOINT

特に花や野菜などの苗栽培では、毎年継続して同品質の商品を出荷できるように、毎日の気象条件や栽培記録データをしっかりと管理、蓄積しています。



Staff Interview

米口 清香さん(写真左)

2023年に入社し、現在は後継者として奮闘中です。学ぶことばかりで大変ですが、自分で管理した植物がすくすくと成長する姿にやりがいを感じます。責任は大きいですが、いずれは地域の農業を支える存在になれるよう頑張ります。

鍛冶 瑞穂さん(写真右)

入社6年目。農業は未経験でしたが、母の勤め先という事もあり入社しました。少しずつ任される仕事も増え、日々成長を実感しながら働いています。乗り物が好きなので、これからいろいろ農機具にも挑戦したいです。

花苗・野菜苗を中心に、稲作で地域農業に貢献 長く働きやすい職場環境づくりにも注力

米口農園から「米ログリーナーセリー」として1995年に法人化。総合園芸会社へ飛躍させた先代を受け継ぎ、現在同社では事業の多角化と人材の育成に重点を置いた農業経営を行っています。主力商品は約200品目におよぶ花苗や野菜苗。自社直営店「ドリーム・カントリー」のほかホームセンターや種苗店へ年間約250万本を出荷しています。約10haの農地では米やさつまいもなどを栽培。6次産業化を念頭にさつまいもを「干し芋」に加工し、JA直売所や直営店での販売にも着手しています。地元木津地区の農作業受託(稲作)では地域農業を持続させる使命感を持って米づくりにも全力を注いでいます。

DATA

所在地 〒678-0165
赤穂市木津334

TEL 0791-48-0786

FAX 0791-48-1184

HP <https://www.big-advance.site/c/198/1312/>
(直営店)
https://www.instagram.com/dream.country_ygn/

設立 1995年

従業員数 社員9人、パート26人



Top Message

働きやすい職場環境を整えて 継続して良質な商品をつくり続ける

栽培記録を丁寧に蓄積し、次の栽培に生かすことで、毎年品質が変わることのない良質な苗や農産物をつくり続けることが会社の信用につながります。農作業や園芸には経験を積んだ人材が欠かせません。当社では一人ひとりの希望に合わせた勤務時間を組み、働きやすい環境を整えています。インターンシップ歓迎します。実習生としてぜひ体験に来てください。



代表取締役
米口 彰さん



赤穂郡上郡町

株式会社N.G.C.



事業内容

採卵鶏(レイヤー)の
養鶏(育雛、育成)



おもな産品

生まれたばかりのヒヨ
コを120日間育成し、
採卵養鶏場へ年間約
600万羽出荷



こだわりPOINT

「基本に忠実な飼育管理」を理念に掲げ、新技術を積極的に導入。ワクチネーションやデータ活用
の徹底により高品質な採卵鶏を安定供給してい
ます。



Staff Interview

赤穂農場 飼育管理課

竹内 美乃莉さん(写真左)

2015年に入社しました。小さいころから動物が好きで、友人から勧められたのがきっかけです。約10万羽を育成する鶏舎を1人で担当し、ワクチン接種や採血なども行うので大変ですが、元気に育った鶏が出荷されると達成感があります。福利厚生面が充実していて、人間関係も良いのでとても働きやすい職場です。

赤穂農場 飼育管理課

清水 惇平さん(写真右)

農業高校出身ということもあり、第一次産業に興味がありました。今は飼育管理課で鶏を育成しています。日々仕事をしていく上で鶏の成長を間近で感じられるのがすごくやりがいがあります。福利厚生面が充実していて社員旅行などもあり、人間関係も良いので働きやすい職場です。

鶏を育てる、人を育てる

徹底した品質管理で100年企業を目指す

N.G.C. は「ひな」から「にわとり」まで育てる育成業務のプロフェッショナルとして、本社がある赤穂郡上郡町の「赤穂農場」をはじめ、岡山県、広島県に5つの養鶏農場を構える西日本最大級規模の採卵鶏育成企業です。高品質な鶏に育て上げるため10年以上にわたって全農場のデータ管理を推進。給餌やワクチネーションを科学的に分析し、健康な鶏に育つ育成率は99%を達成しています。社員の育成にも力を入れ、各種勉強会や社外セミナーへ積極的に参加。社員の成長こそが鶏の品質向上へ繋がると確信し、一丸となって100年企業に発展するための仕組みづくりに取り組んでいます。

Top Message

若手を中心に、向上心を持って 取り組んでいます

赤穂農場では年間約250万羽の健康な鶏を出荷しています。2019年にはタブレットによる最新の飼育管理システムを導入しました。20代~30代の若手社員が中心となって業務提案や改善ができる風通しの良い職場であること、全員が和気あいあいとして仲の良いことが自慢です。食の根幹を支えるやりがいのある仕事「養鶏」を、一緒に担っていきましょう。



本社 赤穂農場 農場長
竹内 孝仁さん

DATA

所在地	〒678-1261 赤穂郡上郡町旭日乙441-1	
TEL	0791-52-0383	
FAX	0791-52-5393	
HP	https://ngc-hp.azurewebsites.net/	
設立	1987年7月	
従業員数	社員49人(本社赤穂農場)	



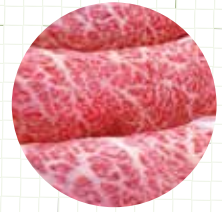
赤穂郡上郡町

株式会社山上畜産



事業内容

肉牛肥育、精肉販売



おもな産品

黒毛和種の肉牛を年間約800頭出荷。本社に直売所を併設し精肉販売も行っています。

わたしたちの思い

肉本来の旨味が凝縮された「また食べたくなる」和牛の味を家庭に届けたい。上郡町ふるさと納税の返礼品にも精肉を提供。地域の活性化に役立ててもらいたいと考えています。

こだわりPOINT

自然豊かな直営牧場で育てています。あえて機械化を急ぐのではなく、人手をかけて牛と向き合うことで出荷牛の枝肉付付けA5ランク率高水準という品質を実現しています。



Staff Interview

田辺 裕基さん(写真左)

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業。兵庫県立農業大学校を経て実家で繁殖農家をスタートさせ、縁あって当社に入社しました。何でも相談に乗ってくれる社長の人柄と、牛の評価で結果が分かるこの仕事が気に入っています。

平田 知行さん(写真右)

2009年入社。生き物を扱う仕事は毎日一頭一頭の調子を見ながら手作業で世話をするので大変ですが、順調に育って出荷されるとやりがいを感じます。

長年の経験により子牛の血統を目利きし、直営牧場で手間を惜しまず育てる

「赤穂市有年牛舎」「上月第1・第2牛舎」「三日月牛舎」の3カ所で直営牧場を経営し、黒毛和牛の生産頭数では兵庫県下トップクラスの実績をもつ山上畜産。鹿児島など各地から生後9カ月の雌牛を買い付けて約20カ月肥育、約1800頭を兵庫県産和牛として育てています。肉質に対するこだわりは、創業時から数万頭を買い付けてきた経験に基づく子牛の選定から始まります。直営牧場では肥育牛が喜ぶ快適な環境づくりとスケールメリットを生かしたコスト節減を実現。高水準の肉牛として卸売市場などから高い評価を獲得しています。

DATA

所在地	〒678-1231 赤穂郡上郡町1455	
TEL	0791-52-1246	
FAX	0791-52-4859	
HP	https://yamagamichikusan.com/	
設立 従業員数	2017年(創業1975年) 9人	

Top Message

まじめに牛と向き合い、育て上げる喜びを伝えたい

西播磨の豊かな自然の中で、牛が喜ぶ快適な牛舎環境で育てることが良い肉質を生み出すことにもつながります。真摯に牛と向き合えば、おのずと結果がついてくると考えます。夢を持つ若者に畜産のやりがいを伝えていきたいですね。



代表取締役
山上 進さん



赤穂郡上郡町

有限会社レイ



洗浄からパッキングまで、集卵工程も自動化



最新の「ウインドレス鶏舎」により安全・衛生面もしっかりと管理

事業内容

鶏卵の加工・販売、鶏ふんの加工・販売

おもな産品

鶏卵約20万個/日
発酵鶏ふん
約6,000t/年間



こだわりPOINT

エサやりから集卵、空調管理、鶏舎内の清掃まで、ほとんどの作業を最新設備でオートメーション管理しています。2020年3月、食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられるJGAP認証を養鶏場として取得しました。



徹底したオートメーション管理で 安心で高品質のブランド卵を提供

高砂市本社の鶏卵加工販売大手「株式会社籠谷(かごたに)」の関連会社として、2008年に設立された「有限会社レイ」。2013年、18年、20年に設備更新した3棟の鶏舎で約24万羽の鶏を飼育しています最新の「ウインドレス鶏舎」は換気能力に優れ、温度や日照管理、集卵やゲージ周りの清掃などが自動化。安心・安全で質の高い卵を生産しています。鶏ふんはコンポジットで丁寧に時間をかけて発酵、さらに天日で乾燥させて出荷。サラサラで臭いもほとんどなく、コマ作りの現場でも高い評価を受けています。

DATA

所在地

〒678-1261
赤穂郡上郡町旭日丙449-15

TEL&FAX

0791-52-0039

設立
従業員数

<https://www.kagonet.co.jp/farm/>
2008年2月
社員2人、パート8人



Top Message

**20~30年先を見据え、
若者を積極的に採用します**

代表取締役 水落 康志さん

当社では、安心して食べてもらえる良質な卵を生産し、消費者の皆様と従業員の幸福度の向上を追求しています。オートメーション化で重労働も少なく、未経験者でもしっかりとしたフォロー体制で働きやすい環境整備を進めています。籠谷グループの一員として将来を担う若者に期待しています。ぜひ、見学に来てみてください。



佐用郡佐用町

株式会社みかづきe



玄米おこし

事業内容

農産物の生産・販売、
加工品の直売



おもな作物

水稻はコシヒカリ、もち米、酒米(兵庫錦)。大豆、小豆を栽培し、加工品(もち、おはぎせんべいなど)を作っています。

わたしたちの思い

「日本の食文化は農業が作る」という思いで、安全でおいしい農作物を作っています。古き良き日本の食を提案したいと、農作物の加工品を姫路城前と佐用町平福のセレクトショップ『重次郎 -JYUJIRO-』で販売しています。

こだわりPOINT

土づくりは健康づくりと考え、化学肥料・農薬を使わず発酵鶏ふんを使用。除草剤は年に1回だけとこだわり、栄養価の高い作物を栽培しています。2018年には町内で初となる「グローバルGAP」認証を取得しました。



姫路城前「重次郎 -JYUJIRO-」

三日月地区で水稻中心に小豆・大豆を栽培 セレクトショップ『重次郎 -JYUJIRO-』を経営

「みかづきe」はJR姫新線三日月駅にほど近く、かつての佐用郡三日月町で水稻を中心に大豆・小豆を栽培しています。代表取締役・三木伸雄さんは「自分でモノを作りたい」と百貨店から転身し、義父が設立した同社に2006年入社し就農しました。百貨店バイヤーの経験を生かし、6次産業化を積極的に展開。もち米・小豆・大豆は和菓子に加工し、自社が姫路城前と佐用町平福で経営するセレクトショップ『重次郎 -JYUJIRO-』で販売。特産の佐用もち大豆やヒマワリの種を使った「玄米おこし」は、西播磨フードセレクションで金賞を受賞しました。コシヒカリは社会福祉法人や地元企業、レストランへ直売と、ほとんどを自主流通させています。

DATA

所在地

〒679-5131
佐用郡佐用町上本郷363

TEL&FAX

0790-79-9270

H P

<https://jyujiro.com/>
(直営店Instagram)
<https://www.instagram.com/jyujiro.blf/>

設立 従業員数

2002年
社員2人



Top Message

農業をビジネスとして成り立たせたい 国道179号沿いの農家が連携

6次産業化は昔から農家が当たり前に行っていたこと。農業をビジネスとして成り立たせるために、地域と連携してモノづくりをしていきたい。国道179号沿いの農家・畜産農家が連携して、地元スーパーで作物や加工品の販売をしています。佐用高等学校で臨時講師として就農講座を行っています。



代表取締役
三木 伸雄さん



佐用郡佐用町

株式会社山本営農



事業内容

農産物の生産・販売、農作業の受託

おもな作物

水稲は酒米(白鶴錦)、コシヒカリ、キヌヒカリ、ヒノヒカリ、加工米、うるち米、野菜はブロッコリー、ロマネスコ、キャベツ、はくさい、ヒマワリ、そばと多品目栽培しています。

わたしたちの思い

昼夜の気温差が大きく、霧が多い気候を味方に、酒米を中心とした米づくりをしています。兵庫県が誇る酒米の生産を、地域で継続していきたいとがんばっています。

こだわりPOINT

酒米は背が高く稲が軟らかいので、倒れないように水の管理、追肥が大切です。契約収量をきちんと確保できるよう、丁寧に栽培しています。

Staff Interview

山本 優時さん(写真左)

兵庫県立農業大学校を2018年3月に卒業後、近隣の大型農家で基礎を学んで、9月に入社しました。米づくりのほか、祖父の勧めで、野菜づくりに挑戦しています。稲作の後は冬野菜の定植を行っています。消費者においしいと言ってもらえる野菜をつくりたい。学校や他の農家で学んだことは、実際の仕事でも役立つことが多いですよ。

白鶴錦を地域の契約農家と一緒に栽培 親子三代で佐用町の農業を盛り上げる

兵庫県の南西部、岡山県との県境に位置する佐用町で、酒米を中心に水稲と野菜栽培を行う「山本営農」。古くからの稲作農家でしたが、前代表取締役の山本巖さんの代から酒米の栽培を始めました。2010年からは、地域の酒米栽培農家20数軒と連携して、灘の酒造メーカー白鶴酒造が独自開発した「白鶴錦」の契約栽培を行っています。どの農家も、酒米の大生産地である兵庫ブランドを守る気概を持って栽培しています。

2017年に法人化。翌年、山本巖さんの孫優時さんが入社し、2024年には代表取締役を娘婿の衣本貴浩さんに移譲。親子三代で農業経営を拡大し、佐用町の農業の発展に大きく貢献しています。

DATA

所在地	〒679-5205 佐用郡佐用町安川896	
TEL	0790-78-1087	
FAX	0790-78-1085	
HP	https://www.instagram.com/yamamoto_einou.7000/	
設立	2017年	
従業員数	社員2人	

Top Message

機械化で省力化し労働環境改善を 稲作の農閑期には多品目の野菜栽培も

従業員がきちんと休みが取れる職場にしたいと、早くから機械化にも積極的に取り組み、省力化を進めています。年間を通して仕事があることも大切で、多品種の野菜の栽培も行い、冬野菜の栽培は若い人に任せています。



代表取締役
衣本 貴浩さん



たつの市

株式会社ささ宮農



Staff Interview

竹北 貢さん(写真左)

2010年入社。経営方針や作付計画全般、ささ宮農と加工場の総括を担当しています。農業は自然と向き合う仕事なので常に変化があります。そこが楽しめる場所だと思います。

森口 正也さん(写真右)

新しい農業の技術や作物に興味があり、2017年に入社しました。土づくりから植え付け、収穫とさまざまな作業を担当しています。消費者に信頼される農業を目指していきたいです。

事業内容

農業、機械修理、加工、販売



おもな作物

米は年間160tを給食センターやスーパー、大阪の販売所へ出荷。小麦年間63t、大豆年間15tはJAから株式会社ヒガシマル醤油へ。バジル年間60tは一次加工後、神戸の調理食品専門メーカー、エム・シーシー食品株式会社へ出荷。

わたしたちの思い

日本の活力の源でもある「農地を守る」ということが一番の思いです。スマート農業を進める一方、先人たちから引き継いだ人の目と手をかける栽培方法も大切にしています。



こだわりPOINT

主カブランド「ささのう米(うまい)」をはじめ、天日干し製法の「はさがけ米」や水田にメダカを放流し栽培する「めだか米」など、こだわりの米づくりで多様な消費者ニーズに対応しています。



県推奨ブランド米と高収益作物の栽培で地域の元気アップにも貢献

清流揖保川の豊かな水源を活用して農業を営む「株式会社ささ宮農」。米、大豆、小麦、バジル、季節の野菜など、約63haの農地を管理しています。主力の米づくりは、他との差別化を図るため、2013年に有機肥料による特別栽培で兵庫県認証食品を取得。安全安心でおいしいお米を消費者へ届けています。また2004年、当時では珍しかったバジルの生産を開始。その10年後には自社工場が完成。朝早くから手摘みしたバジルを新鮮なままペーストにして冷凍しています。その品質の高さは西播磨フードセレクション金賞を受賞するほど。生産が追い付かず地元農家も巻き込みながら、地域と共に発展していく姿は頼もしい限りです。

DATA

所在地 〒679-4304
たつの市新宮町下笹1049
TEL 0791-77-0177
FAX 0791-77-1770
HP <https://www.sasaeinou.com/>
設立 2006年
従業員数 社員10人、パート30人



Top Message

休日や各種社会保険を完備して一緒に働く人を待っています

今後もほ場整備が進み、管理面積は増え続ける予定ですが、従業員数が少なく着手できないのが実情です。農業に従事する若者を“金の卵”と思い、会社の中核を担う人材として育成します。独立を目指す若者には手厚いサポートと一緒に地域農業を盛り上げたいです。



代表取締役
八木 正邦さん



たつの市

株式会社J McCoy



Staff Interview

島 紘太さん

岡山理科大学を卒業し、2016年に入社。栽培全般の作業とリーダーとして他のスタッフのマネジメントを担当しています。農業のことは全く知らずに働き始めましたが、代表が丁寧に教えてくださり成長できました。これからは難易度の高いことにもチャレンジし、できることを増やしていきたいです。

DATA

所在地 〒679-4343
たつの市新宮町大屋387-1

TEL&FAX 0791-75-2217

H P <http://www.uedanouen.net/>

設立 2016年

従業員数 社員3人、パート1人



Top Message

「美味しい!」と言ってもらえる作物づくりはワクワクしながら働くこと

従業員を大切にする職場です。土日祝の休みや各種保険の完備だけでなく、給与査定においても面談で点数化する方式を採用しています。また、ワクワクしながら仕事をするをポリシーとしていて、楽しく働く環境は整っていると思います。これからはイベントや展示会に積極的に参加してつながりを増やし、従業員も会社と一緒に成長していきたいです。



代表取締役
上田 哲也さん

事業内容

農産物、加工品の生産、販売



おもな作物

水稲(夢ごち、ミルキークイーン、ヒノヒカリ、もち米)50t、豆(白大豆、黒大豆、小豆)6tを直売。小麦19tはJAへ出荷。そのほかに加工品も数多く販売しています。



わたしたちの思い

「人に喜びを与え、必要とされる企業」を目指しています。そのためにまず我々「働く人」が幸せであること。「家族や友人に話したくなる仕事をしよう」をモットーにしています。

こだわりPOINT

地域にとってかけがえのない存在になりたいです。小学生などを対象に、田植えや稲刈り、ブルーベリーの摘み取り体験で地域農業の大切さを広めるなど、地域との関わりを深めています。



自然派志向の人々から絶大なる支持 化学肥料に頼らない本物の味を提供

たつの市北部、昼夜の気温差が大きく、作物づくりに適した場所にある「株式会社J McCoy(ジェイマッコイ)」。減農薬、無化学肥料、作物によっては完全無農薬で、米や大豆、ブルーベリーなど、約23haを作付けしています。緑肥を田畑にすき込み、米ぬか、くず大豆を散布し、除草剤ではなく除草機で雑草を抜き、ぼかし肥料など有機肥料や自社製の竹パウダーを使用するなど、農薬や化学肥料に頼らない循環型農業です。「自然のエネルギーや植物、商品にはできないけれど肥料として役立つ副産物の力を借りて生産しています」と語る上田哲也代表。その姿勢に賛同者は多く、地元はもちろん全国に美味しく安全安心な「J McCoy」の味を届けています。



たつの市

株式会社博農



事業内容

農産物の生産販売、加工食品の製造販売

おもな作物

にんじん・キャベツ・ブロッコリー・だいこんなど、栽培する野菜品種は約25品目に及びます。JAを通じて京阪神の市場へ出荷するほか、京阪神・名古屋のスーパー各社、契約飲食店などへも出荷。

わたしたちの思い

栽培・収穫・出荷すべてにおいてきめ細かな仕事を心がけています。お客様が必要とする用途に合わせた最適な品種、調理・加工方法の提案など、「野菜のオーダーメイド栽培」を心がけています。

こだわりPOINT

取引先のニーズとともに、家族の「食」を預かる主婦の目線を大切にしています。女性従業員も積極的に商談に参加。調理方法やレシピの提案などを通じて、出荷野菜に付加価値を付け、販路・売上拡大に貢献しています。

Staff Interview

下村 和也さん

農業高校を卒業後、集落営農に就職し、米作りを専門に取り組んできました。農業の将来を考える中で、野菜づくりを本格的に学びたい思いが強まり、2022年に博農に入社しました。現在は機械作業に加え、手作業で野菜と向き合う時間も多く、散布する肥料で野菜の味が変わるなど、野菜づくりの奥の深さを日々感じています。収穫の喜びを味わえることはもちろん、農業のやりがいと楽しさを実感しながら仕事に取り組んでいます。

丁寧に育て、丁寧に収穫、丁寧に出荷 付加価値の高い野菜づくりで販路を拡大

「博農」は、たつの市の瀬戸内側干拓地「成山新田」で野菜栽培を行っています。同社の農業の基本は、「丁寧に育て、丁寧に収穫、丁寧に出荷、そして店頭に並ぶまで、すべてを丁寧に」。野菜の生産から販売まで一貫して手掛け、「取引先や消費者に買いたいと思っただけの野菜を作ること」を大切にしています。「博農」の野菜は、ひょうご安心ブランドやひょうご農林水産SDGs認証を取得。さらに農林水産省の「みどりの食料システム戦略」に基づき、環境負荷を減らす取り組みを進めています。その努力は「見える化」され、最高評価の星☆☆☆を獲得。環境にやさしい野菜づくりを実現しています。

DATA

所在地 〒671-1321
たつの市御津町刈屋1036-1

TEL 079-322-4500

FAX 079-322-4600

HP <http://www.hakunou.co.jp/>

設立 2012年

従業員数 社員4人、パート8人



Top Message

農業経営体にとって一番大切なのは人材モチベーションがあって自分なりの夢をもつ若い農業人を育てたい農業をひとつの産業として存続、発展させていくために、これからは作物に付加価値を付け、つくり手が優位に立てる販路を開拓していくことが重要になります。農作物を育てることは母親が子どもを育てることと似ています。「農業が好き」、「育てることが好き」な人を歓迎します。夢を持って野菜のプロフェッショナルを目指しましょう。



代表取締役
八木 隆博さん



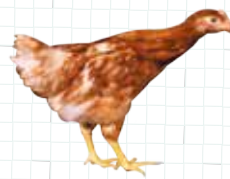
たつの市

有限会社藤橋家ひよこファーム



事業内容

採卵鶏育成事業



おもな産品

藤橋家グループの一員として「有限会社藤橋家姫路夢前農園」への出荷を含み、年間70万羽のヒナを兵庫・岡山・京都・奈良・高知・広島・島根などへ出荷。また、年間約450tの発酵鶏ふんを近隣農家へ販売しています。

わたしたちの思い

「笑顔と喜びと活気に溢れ、優れた多くの人々が集い、真に社会に貢献し、食の源である畜産・農林漁業を支え発展させる日本一の創造力みなぎる企業となる」という藤橋家グループの経営理念を胸にがんばっています。

こだわりPOINT

地域住民と環境に配慮して臭気、汚水、粉じん対策を設立当初から行っています。肥料となる発酵鶏ふんは「良い野菜が育つ」と好評で、地域と共に発展していく企業を目指しています。



Staff Interview

富田 裕紀さん

兵庫県立佐用高等学校農業科学科を卒業し、2016年に入社しました。鶏舎1棟、約3万羽のヒナの育成管理を担当しています。ヒナはストレスから病気になることが多く、猛暑や極寒の温度管理を自分なりに工夫して過ごしやすい環境を整えています。今後の目標は元気なヒナをお客様に届ける出荷リーダーになることです。

ヒナの小さな命に愛情と真心を込めて 元気な採卵鶏へ育てます

「有限会社藤橋家ひよこファーム」は、たつの市新宮町を流れる揖保川にほど近い場所にあります。ヒナが生まれてから鶏卵を生産できるようになる約4カ月間の育成事業をしています。「健康で卵をしっかりと産める高品質なヒナ」に成長させるため、鶏舎の衛生対策、温度管理を徹底。また、免疫力を高めるワクチン接種や、元気なヒナに育てるために善玉菌を増やすビタミン剤や制菌剤を与えるなど、藤橋家ひよこファームが培ってきた飼育法を基本に、日々最新情報を取り入れながら育成しています。愛情いっぱい育てたヒナたちは、「元気で卵をよく産んでくれる」と出荷先から安心、信頼、満足の声が多く寄せられています。

DATA

所在地	〒679-4314 たつの市新宮町曾我井103
TEL	0791-75-2280
FAX	0791-75-4786
HP	https://fujihashiya-shingu.net/
設立	1982年
従業員数	10人



Top Message

お客様から信頼され、
満足される会社と一緒にいきましょう

私たちの仕事は、手のひらに乗る小さいヒヨコを多くの技術と知識で鶏にまで成長させる「命を育てる」仕事です。卵は日本の食卓には欠かせない栄養食品。多くの家庭の食卓を支えるやりがいのある仕事です。生き物相手なので試行錯誤することが多々ありますが、提案を受け入れる風土がある職場です。私たちと一緒に充実した日々を送りましょう。



農場長
福田 浩行さん



たつの市

株式会社フジ工房 新千農園



「九条太ねぎ」はヒガシマル醤油「うどんスープ」の原材料に



神戸の産直店舗に並ぶ新米

事業内容

水稻、野菜、豆類の栽培

おもな作物

- 水稻 (特別栽培米)
ミルキープリンセス、コシヒカリ、ヒノヒカリ、ササニシキ、はいごころ (胚芽米)
- 九条ねぎ、ジャガイモ、大豆、黒大豆



こだわりPOINT

粘りが強く甘味があり、冷めても硬くなりにくい「ミルキープリンセス」や「姫ごのみ」を自社ブランド「夢はりま」として商標登録。毎年残留農薬検査を欠かさず行っています。



Staff Interview

大田 浩誉さん

2017年に家族3人で姫路から移住し入社しました。学生時代に藤本社長と知り合ったのが縁です。会社員を7年経験しましたが、今では農作物を育てるといふ「人に喜ばれるものづくり」にやりがいと誇りを感じています。周囲の人たちもとても親切で、子どもたちの成長を楽しみに仕事に励んでいます。

人と自然にやさしい農業を貫き 有機肥料100%の特別栽培米で信頼を獲得

「フジ工房 新千農園」では、「ミルキープリンセス」など経営耕地の約9割を占める水稻栽培のすべてが有機肥料100%・残留農薬不検出の特別栽培米を生産しています。担い手不足から地域の休耕田を任せられることが増え、現在の経営面積は約30ha。「ひょうご安心ブランド」の認証を受けた特別栽培米は阪神間の産直店舗やたつの市の給食、姫路・神戸などの介護施設に出荷。ネット販売も毎年完売し、その高い品質が評価されています。ヒガシマル醤油の契約栽培としてはじめた「九条太ねぎ」や輪作栽培のじゃがいもなど、経営拡大のための新たな取り組みも進めています。

DATA

所在地 〒679-4346
たつの市新宮町千本717-1

TEL 0791-60-1424

FAX 0791-75-3424

HP <http://www.fuji-koubou.com>

設立 2017年3月

従業員数 社員1人、契約社員1人、パート4人



Top Message

働きがいのある“農業”の職場で 担い手を育成

人と自然にやさしい農業をという思いで、ヘアリーベッチ緑肥などによる有機肥料100%栽培、残留農薬不検出の米づくりを行っています。当社がある新宮町栗栖地区は年々休耕田が増加していますが、地域住民のつながりが強く、移住にも適したこの地で農業を守る次世代の担い手を育てていきたいと考えています。週休2日制など就業規則を明確に定め、働き手の目線で職場環境を整えています。



代表取締役
藤本 俊祥さん



宍粟市

一般財団法人宍粟北みどり農林公社



事業内容

農業経営事業(水稲・黒大豆・白大豆等の栽培)、農作業受託事業、農産加工事業



おもな作物

農業経営部門は水稲(コシヒカリ、キヌヒカリ) 11haで年間約50tを生産。丹波黒大豆は7haで同約4.5t。他に白大豆など。いずれもほぼ全量をハリマ農業協同組合に出荷しています。(2019年10月時点)

わたしたちの思い

「豊かな自然あふれるこの地の農業の火を絶やさない」ことを胸に刻み、全職員一丸となって少しでも農家さんのお役に立てようがんばっています。



こだわりPOINT

農作業受託部門では「耕うん(防除を含む)」「育苗」「田植え」「稲刈り」「ライスセンター(粃摺り)」「大豆の乾燥、脱穀」など幅広くお手伝いをしています。農地所有者からの依頼にはできる限り応えていこうと考えています。



「地域の農地は地域で守る」を合言葉に 森林王国「宍粟市」の農業を支える

宍粟市一宮町、山あいには水田が広がる地域に「宍粟北みどり農林公社」があります。1994年、当時の一宮町・波賀町・千種町(いずれも現宍粟市)の3行政と同地域を業務区域とするハリマ農業協同組合の4者によって設立されました。中山間地が多い同地域の農業を守り育てることをモットーに、職員が専門的な知識と技術で農家を幅広く支援しています。農業経営部門では米や丹波黒大豆を生産。農作業受託部門では稲作を中心に宍粟市北部3町の水稲作付用箱苗を供給することも行っています。地域の特産品である丹波黒大豆は、「兵系黒3号」の原種ハウスを設置し、ウイルスフリーの種子を確保。健全な種子を栽培農家に提供しています。

DATA

所在地 〒671-4144
宍粟市一宮町下野田63-1
TEL 0790-72-1720
FAX 0790-72-2430
HP <https://shisokita-nourin.or.jp/>
設立 1994年
従業員数 職員8人



Top Message

ふるさと宍粟を愛する人との繋がりを大切に

私たちは農業を通じて地域に貢献できる仕事をしています。農業従事者の高齢化等により担い手不足が進む中、現在は募集を行っていませんが、ふるさとを愛する人材との繋がりを求めています。「いつかは地元で」という方は大歓迎。まずはHPをご覧ください。



常務理事
福山 敏彦さん



豊岡市

有限会社あした



Staff Interview

三歩 大輝さん(写真左)

中山間地域ならではの大変さもありますが、春はチューリップ、夏はヒマワリなど、四季の変化を感じながら働けることが私たちの仕事の魅力です。

本田 雄一郎さん(写真右)

猛暑や降雪など、自然の厳しさの中での作業は決して楽ではありません。しかし、その努力が実り、収穫できた瞬間には、大きな喜びとやりがいを感じられます。自然と向き合いながら働くことが、この仕事の魅力です。

但東町の農地・地域環境を守り、 未来を担う若手後継者を育成

「有限会社あした」は、豊岡市但東町で2004年よりこだわりの農業を実践。自然に恵まれた但東町で、食の安全と環境への配慮を重視して、米をはじめ特産のピーマン等さまざまな農作物を心を込めて育てています。化学肥料等にはなるべく頼らず、きれいな水、山里の昼夜の温度差や有機堆肥等の地域の資源を活用することで、「安全・安心・おいしい・生産者の顔の見える農業」をモットーにしています。但東町の農地・地域環境を守るために、新規就農者への農地の紹介等、若手育成にも力を入れています。

事業内容

農作物の生産、販売

おもな作物

米は但東町の豊かな自然の中で育てたコシヒカリとミルクークイン。たじまピーマン、有機にんじん、シルクコーンを栽培しています。



こだわりPOINT

お客様との信頼関係を何よりも大切に、期待以上の品質を目指しています。また、学生による農業体験や、お米を通じて農村と都市をつなぐ様々なイベントに参加することで、地域内外の活性化に貢献していきたいと考えています。



DATA

所在地	〒668-0311 豊岡市但東町中山790-1
TEL	0796-20-8319
FAX	0796-20-8320
HP	http://www.ashita2004.co.jp/
設立	2004年
従業員数	社員8人、非常勤2人



Top Message

地域に根差し、地域と共に成長を続ける会社でありたい

私たちは、仲間とともに稲や野菜を育てながら日々成長しています。農業に興味のある若手の方、大歓迎です！自然の中で、やりがいのある仕事を一緒に始めませんか？



代表取締役
山田 将吾さん



豊岡市

有限会社植田農園



事業内容

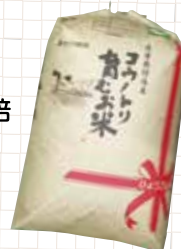
水稲、野菜類の栽培

おもな作物

水稲(特別栽培米コシヒカリ「コウノトリ育むお米」、もち米)

こだわりPOINT

有機栽培米を生産するJAたじま管内の生産者4戸と連携し、2018年1月、全国のJAでは初となる無農薬栽培の主食用米での「GLOBAL G.A.P.」グループ認証を取得しました。



社屋横のハウスでは多品目の薬物野菜を栽培



ラジコン草刈機で草刈りの作業負担を軽減



田植え時には除草剤散布ボートを活用

「コウノトリ育む農法」の先駆者として 未来へと持続可能な地域農業の発展をめざす

コウノトリが野生復帰するために生産者・JA・行政が一体となって普及拡大に取り組む「コウノトリ育む農法」。「植田農園」は、2002年の試験栽培段階からこのプロジェクトに参画、同農法の栽培指針の作成や「コウノトリ育むお米生産部会」の設立(2006年)に大きく貢献しました。今では無農薬栽培を基本に、地域に点在する農家の作業受託も含めて約32ha、126枚の水田をITツール「アグリノート」で管理。寒暖差を活かした少量多品目の野菜栽培も行いながら、農作業を効率化する技術を積極的に導入するなど、農業の労働環境や環境保全において持続可能な農業経営のあり方を実践しています。

DATA

所在地	〒668-0321 豊岡市但東町唐川61-1
TEL	0796-54-0771
FAX	0796-54-0774
設立	1994年
従業員数	社員2人

Top Message

明確な目標を持ち、ガッツのある新人に期待します

植田農園では、ほ場管理システムやIT機器を活用した「スマート農業」を積極的に行い、女性も就農しやすい“重労働のない”安全な労働環境づくりに取り組んでいます。世界基準で安全性が認められた「コウノトリ育むお米」は、今後さらなる需要が見込まれます。農業に関係なくとも、自分なりの夢や目標を掲げて一生懸命がんばる人を応援します。



代表取締役
植田 博成さん



豊岡市

有限会社グリーンいずし



経営耕地内にある「伊豆」のコウノトリ人工巣塔



「アイガモ農法」を取り入れ、田植え時に除草、害虫駆除をしています

事業内容

水稲、豆類の栽培
農産物、加工品の販売
(インターネットショッ
プ・直営店)



おもな作物

水稲(コシヒカリ、ミルクィーQueen、フクノハナ)、豆類(黒大豆、小豆)、加工品(餅、赤飯、おはぎ)

こだわりPOINT

土づくりを重視し、冬期湛水による生き物豊かな水田環境づくりなど、コウノトリと共生する環境創造型農業に取り組んでいます。



「人」と「人」のつながりを大切に 自然と共生する持続可能な農業経営に取り組む

「グリーンいずし」は、豊岡市を流れる円山川右岸に広がる通称「六方田んぼ」の南部、コウノトリの人工巣塔がある出石町伊豆集落などを中心に、14集落の水田地帯約65haで営農を行っています。2006年に設立した「コウノトリ育むお米生産部会」に当初から参画。「コウノトリ育む農法」の啓発・普及に力を注ぎ、同農法で栽培した特別栽培米ミルクィーQueenは「第18回米・食味分析鑑定コンクール国際大会」都道府県代表お米選手権で特別優秀賞を受賞しました。“自然と共生し未来へ継続する農業経営”を掲げ、地域の農業法人と連携しながら、次世代の担い手育成に積極的に取り組んでいます。

DATA

所在地 〒668-0207
豊岡市出石町伊豆字中道696

TEL 0796-52-6823

FAX 0796-52-6827

HP <https://www.green-izushi.net/>

設立 2006年1月

従業員数 社員5人



Top Message

地域内で連携し、 未来を担う人材を育成したい

農業では、作物と並び「人」も大切な財産です。当社は豊岡農業改良普及センターや地域の4法人と共に設立した「但馬地域農業法人連携協議会」の一員として、若手農業者の交流活動や人材育成を積極的に行っています。今後はITを活用した「スマート農業」を推し進め、魅力的でやりがいのある環境を整えたいと考えています。“元気とやる気”あふれる人材を歓迎します。



代表取締役
狩野 誠一さん



豊岡市

株式会社Teams



スタッフ 今井 健二さん

Staff Interview

亀井 知美さん(写真左)

アルバイトを経て2011年に入社。米、野菜全般の栽培を担当しています。スイカ栽培のメイン担当を任せられ、高糖度(16度)の小玉スイカに成功し、ネット販売も好評で完売。達成感を得ることができました。子育て中ですが臨機応変に休みや勤務時間の調整ができるのでとても働きやすい職場です。

それぞれの経験やスキルを生かしながら柔軟な発想で農業の新しいビジネスを創出

「Teams」では、さまざまな業界を経験したスタッフが知恵を出し合って“稼げる農業”に取り組んでいます。神鍋高原を中心に日高町内にほ場が7カ所。米や野菜、果実などほぼすべてを自社で開拓した取引先企業や店舗などに出荷したり、ネット販売で直販しています。実習を通じて就農を支援する「楽農や・農村塾」では、担い手の育成にも注力。栽培データを管理する独自のシステム開発も行っています。「農業という職業を選択するのに“覚悟”は必要ありません。やってみて初めてわかることが誰にでもあります」と、未経験者にも門戸を広げています。

DATA

所在地	〒669-5311 豊岡市日高町日置23-18
TEL	0796-42-2244
FAX	0796-42-2294
HP	https://rakunouya.com/
設立	2009年6月
従業員数	社員9人、パート4人



Top Message

農業はやり方次第で伸びる成長産業です

休耕地が広がるこの地に活気を取り戻したい、との思いで建設業から転身、「Teams」を立ち上げました。農業経営は栽培して出荷したら終わりではありません。作物(商品)の企画や生産はもちろん、さまざまな営業やプロモーションを仕掛けることで成長が期待できます。どんな世の中になっても食料の需要は不変です。新しいアイデアで果敢に挑戦する、そんな若者を会社としてバックアップします。



代表取締役
新免 将さん

事業内容

農産物生産・販売・加工、包装食肉販売、一般酒類販売、魚介類販売、システム開発



おもな作物

水稻(コシヒカリ「コウノトリの舞」など)約5ha、ほしじるし約2ha)、野菜・果実(にんじん、トマト、白ねぎ、ケールなど軟弱葉物野菜、小玉スイカ、いちご)、加工品(「雪下人参ジュース」、乾燥野菜粉末)



こだわりPOINT

2019年にベビーリーフの栽培において「GLOBAL G.A.P.」認証を取得。栽培方法をできる限りデータ化して共有することで、誰でも一定の生産量を確保できる技術指導を心掛けています。



社員のスキルを活かし、本社オフィスではパッケージデザインやWebの運用なども行っています。



豊岡市

中谷農事組合法人



事業内容

水稲、小麦、豆類の栽培、
農産物販売



おもな作物

水稲(コシヒカリ(約7割を「六方銀米」ブランドで直販)、小麦、大豆

こだわりPOINT

「ひょうご安心ブランド」を取得し「六方銀米」を9割減農薬で栽培しています。また、減農薬・無農薬で小麦や大豆のほか、小豆栽培にも取り組み、生産を拡大させています。



「六方田んぼ」と呼ばれる穀倉地帯にあるほ場



作業現場にやってくるコウノトリ

Staff Interview

澤卓利さん

農業大学校に2年間に在籍後、2025年度に入社しました。実家は非農家でしたが、農業大学校での経験や先輩社員方々からの万全のサポートにより、基礎知識と実践力を習得しました。生産から販売まで一貫して行っていますので、地域の方以外のお客様との交流も盛んです。忙しくなることも多々ありますが、その分やりがいもあり、毎日がとても充実しております。「農業をやってよかった!」と思えるような職場にしていきたいです。

独自ブランド「六方銀米」を直販 全国を視野に収益の拡大を目指す

「中谷(なかのたに)農事組合法人」は、1987年に豊岡市中谷集落の全農家33戸が集団営農組織「中谷営農生産組合」を結成したことに始まります。兵庫県初となる一集落一農場方式の共同経営によって全農地を管理。ライスセンターの設置や農機具の共同利用を進め、1993年に特別栽培米コシヒカリを「六方銀米(ろっぽうぎんまい)」として独自ブランド化しました。1998年に特定農業法人認定により法人化。早くから自社ウェブサイトのネット通販に力を入れ、「ひょうご安心ブランド」認証を受けた「六方銀米」は、全国からリピート購入される人気ブランドに成長しています。

DATA

所在地 〒668-0874
豊岡市中谷133-1
TEL 0796-24-0758
FAX 0796-34-6008
HP <https://nakanotani.com/>
設立 1998年1月
従業員数 社員6人、パート4人



Top Message

農業においても 会社勤務のように働ける職場を目指します

組合が法人化するメリットは、社会的信用力が向上し、就業条件が整備されて従業員が安心して働ける企業体になることです。収益性を高め、安定した経営を行うことで後継者の育成にも取り組んでいきたいと考えます。私自身、会社員から転身して就農しました。専門知識のハードルはありません。やる気さえあれば当組合の先輩が一から教えてくれますよ。



代表理事組合長
松井 栄作さん



美方郡香美町

株式会社上田畜産



Staff Interview

水間 達哉さん(写真左)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業し2018年に入社。畜産農家になることは子どもの頃からの夢でした。将来の独立に備えて、ここの「完全一貫生産体制」からたくさんのことを学びたいと思っています。

上田 晃也さん(写真右)

兵庫県立但馬農業高等学校畜産科を卒業後、大学進学を経て2018年に入社。子どもの頃から父と同じ道に進みたいと考えていました。健康で優良な牛になるように一頭一頭心を込めて世話をしています。

名牛の産地・ 美方地域で、究極の但馬牛を目指して

「上田畜産」の牛舎がある兵庫県美方郡は、昔から但馬牛の飼育に熱心な地域で「名牛の産地」といわれています。ここでは優れた資質・肉質を持つ但馬牛の遺伝子を後世へ継承するために、郡内の牛だけを遺伝資源として地域固有の血統を守ってきました。飼育を通じて地域の暮らしや自然環境などの保全も担ってきた耕畜連携の農業体系が評価され、「人と牛が共生する美方地域の伝統的但馬牛飼育システム」として、2019年には「日本農業遺産」、2023年には「世界農業遺産」に認定されました。同社代表が12頭の母牛で繁殖経営を開始したのは1992年。以来、牛たちに惜しみない愛情と手間をかけながら、常に「但馬牛」の品質向上に努めています。

事業内容

但馬牛の繁殖、
肥育、精肉、販売



おもな産品

但馬牛約1,000頭を管理。同社で育てる牛は但馬牛の中でも一線を画したものと位置付け、独自ブランド牛「但馬玄(たじまぐる)」と命名して提供。直売店「牛匠上田」を香美町の本社と城崎温泉で展開しています。

わたしたちの思い

「お客様へおいしくて安全な牛肉をお届けする」ことを第一に、繁殖と肥育、食肉加工、精肉、販売をすべて行う「完全一貫生産体制」で、全スタッフが責任を持って取り組んでいます。

こだわりPOINT

夏はスキー場で放牧し、冬はゴマやアワなど天然素材を主体としたオリジナル飼料を与えます。自然に近い環境と肥育方法によって、深い風味の赤身とあっさりした脂身の肉質になります。



DATA

所在地 〒667-1511
美方郡香美町小代区神水738
TEL 0796-97-2929
FAX 0796-97-2915
HP <https://gyusho-ueda.co.jp/>
設立 2009年
従業員数 15人(社員、パート含む)



Top Message

高品質な但馬牛を生産しながら、
牛飼い仲間も増やしたい

「完全一貫生産体制」を実現し、各工程での品質のチェックや消費者ニーズの把握から得た情報を、内臓から尻尾の先まで優良な「但馬牛」を生産することに生かしています。また、起業を目指す若者を育成・支援し、牛飼い仲間を増やしていきたいと思っています。



代表取締役
上田 伸也さん



美方郡新温泉町

株式会社但馬中井畜産



事業内容

牛の繁殖、肥育一貫経営

おもな産品

繁殖牛120頭、肉牛80頭の但馬牛を飼育中。毎年、品評会に出す品位の高い出品牛の飼育も行い、数々の賞を受賞しています。

わたしたちの思い

ブランド和牛の人気が高まり、海外への輸出が多くなっている中、今の流行や商業ベースだけではなく、日本の牛のルーツといっても過言ではない但馬牛ブランドを守っていきます。

こだわりPOINT

地元産のとうもろこしや牧草で飼料の自給率を上げ、より質のいい但馬牛の飼育を行っています。通常よりもはやく個体管理を行うことで、牛の体調管理にも力を入れています。



Staff Interview

中井 崇泰さん(写真左)

1年間、同業他社での修行を経て、2017年に入社しました。但馬牛はデリケートなため、機械やAIに頼るのではなく、人が経験を積み、目で見て、手で触れて育てていくものです。

松原 聖磨さん(写真右)

崇泰さんからの誘いがあったことに加え、但馬牛について生き生きと楽しそうに話す姿を見て、自分も飼育に関わってみたいという思いが芽生えたことをきっかけに就農しました。現在は、牛と戯れながら、日々楽しく飼育管理に取り組んでいます。

昔ながらの但馬牛をじっくり育てる

但馬地方は古くから牛の飼育が盛んで、但馬牛の産地として有名な地域です。但馬中井畜産は法人設立こそ2016年ですが、明治から畜産を営んでいて、現在代表を務める中井勝さんで四代目です。但馬牛の肉は、優れた資質と極めて高品質な肉質を併せ持ち、神戸牛や松阪牛、近江牛など多くのブランド和牛の素牛となっています。但馬中井畜産では5月下旬から10月末ごろまで、近くの4カ所の放牧場に分散させ昼夜放牧を実施。より良い環境での飼育を行っています。但馬牛ブランドを守るために『昔ながらの小柄だが、肉質、骨のしまり、毛並みのいい但馬牛』をじっくり育てることに力を入れています。

DATA

所在地	〒669-6832 美方郡新温泉町飯野1877-1
TEL	0796-92-1173
FAX	0796-92-2511
HP	https://www.instagram.com/nakai_1129/
設立	2016年
従業員数	社員3人、パート2人



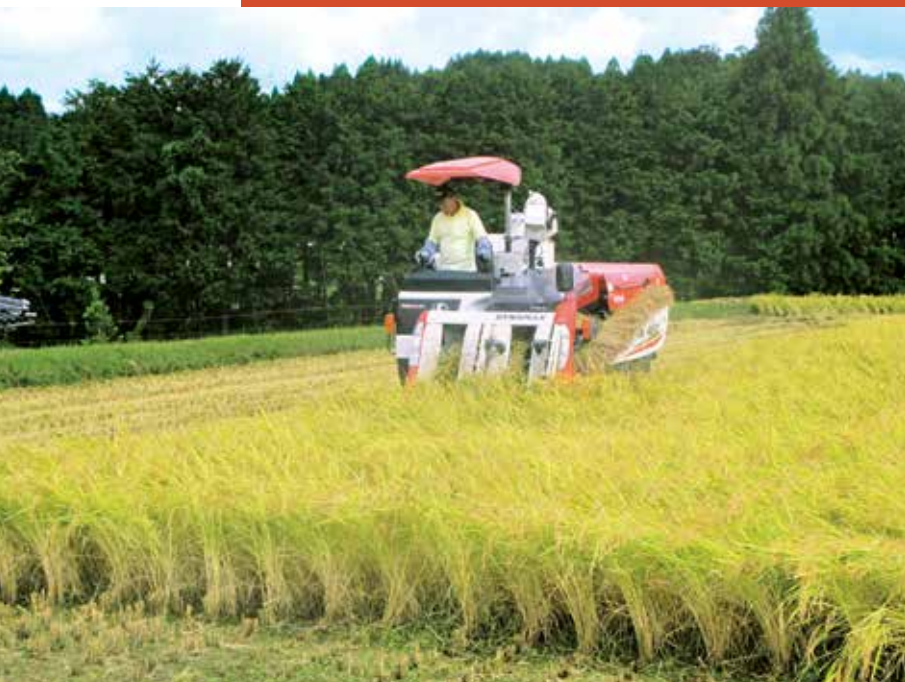
Top Message

世界中で人気の和牛、飼育だけでなく世界情勢も勉強してほしい

新温泉町では2017年から「地域おこし協力隊」事業に取り組んでいます。飼育技術や経営の研修、資金面などさまざまな新規就農サポートを行っています。牛の飼育はもちろん、ビジネス面もしっかりとした後継者を育てていきたい。



代表取締役
中井 勝さん



事業内容

宿泊、レストラン、スキー場の経営と営農

おもな作物

コシヒカリ約4haと水稲種子を約4ha栽培しています。おいしいコシヒカリが採れる地域特性を生かしながら、地元ベテラン農家の優れた技術を継承したいと考えています。

わたしたちの思い

「スキー場」「飲食宿泊業」「農業」という経営の三本柱を連携させ、継続可能な経営を目指しています。米づくりでは、この地域に合った栽培方法で手を抜かず心を込めて作業しています。

こだわりPOINT

営農部門で収穫した自慢のコシヒカリを、但馬牧場公園内のレストランや宿泊施設で提供したり、飯米を醸造したオリジナルの純米吟醸生酒の原材料に使ったりして、そのおいしさを最大限に引き出せるように努めています。



Staff Interview

村田 瑞樹さん(写真左)

兵庫県立農業大学校を卒業後、畜産業経営を目指して但馬牛の繁殖・肥育が盛んな新温泉町に地域おこし協力隊として移住しました。たくさんの田んぼを管理できるように大型特殊免許も保有しています。

宮脇 響基さん(写真右)

兵庫県立農業大学校畜産専攻を卒業後、地元新温泉町に帰ってきました。地域の農業を守るべく大型特殊免許と狩猟免許を取得し、有害鳥獣駆除も行っています。

地元営農組合と協力し、意欲ある若者ととともに地域が誇る「棚田」でおいしい米づくり

丹土富士と呼ばれる愛宕山(あたごやま)を中心とする照来(てらぎ)盆地の風土を生かしたさまざまな事業に取り組んでいる「湯村温泉愛宕山観光」。兵庫県立但馬牧場公園内にスキー場や宿泊施設(まきばの宿)、レストランを経営しながら2014年から農業にも本格参入しました。盆地特有の寒暖差のある気候ときれいな水が流れ込む棚田で栽培するお米は、市場でも高く評価されています。この地域でも近年、農業従事者の高齢化や人口減少に伴う担い手不足が課題となっていますが、同社では若いオペレーターを積極的に育成し、地元の営農組合と協力して、地域の誇りでもある棚田の景観を次代に残していきたいと考えています。

DATA

所在地 〒669-6813
美方郡新温泉町丹土1033

TEL 0796-92-1005

FAX 0796-92-1006

HP <https://www.bokujiyo.com/company.html>

設立 1972年

従業員数 5人



Top Message

複合経営で可能となる通年雇用。
若い担い手を育成したい

スキー場なども複合経営する当社では、営農部門の栽培品目が米のみであるにもかかわらず、通年雇用を可能とする強みがあります。農業経営を目指して他府県から来た若者たちには、但馬の慣習や文化にも親しみながら米づくりを学んでほしいと思います。



代表取締役
西坂 修さん



養父市

有限会社アグリハイランド金谷



Staff Interview

西村 伸二さん

社会福祉施設の作業所から週2回のペースで野菜の収穫やほ場の片付け、肥料散布などを行っています。もう20年以上ここで農作業に従事しているので、金谷さんからも頼りにされて励みになっています。

事業内容

農産物の生産、販売



おもな作物

ほうれんそう、みずな、こまつな、小かぶ、クウシンサイなどの葉物野菜とミニトマト

わたしたちの思い

人と自然にやさしい有機農業一筋。天候や病害虫、野菜の病気に悩まされながらもさまざまな工夫をし、安心・安全な野菜を消費者に届け続けています。

こだわりPOINT

標高650mの準高地に位置するおおや高原の夏の冷涼な気候を生かし、葉物野菜を栽培しています。牛ふん堆肥と有機肥料のみを使用し、化学薬品不使用の有機栽培です。



契約出荷で安定した経営基盤を有し 有機栽培による高原野菜を長年継続

標高500m~700mの高原に約300棟のビニールハウスが並ぶおおや高原。「アグリハイランド金谷」は、JAたじまおおや高原有機野菜部会の一員として高原野菜の生産を行っています。早くから有機JAS認証を取得し、38棟のビニールハウスで葉物野菜やミニトマトを栽培。積雪が深いおおや高原は冬場の農作業ができないため、朝来市にもほ場を確保し、平地での露地栽培も行っています。有機栽培による高原野菜の品質が評価され、「コープこうべフードプラン」の生産委託農家として1990年から契約出荷を継続しているのが強みです。また、オーガニックビレッジ宣言を掲げる養父市やJAなどと一体となって有機農業の拡大に取り組むほか、農福連携による障がい者就労支援も行っています。

DATA

所在地	〒667-0322 養父市大屋町筏525-1	
TEL	090-2286-3242	
HP	https://ahkanatani.info/ahk211215/	
設立	2000年8月	
従業員数	パート4人	

Top Message

消費者の「ありがとう」が喜び 後継者の指導も積極的

おおや高原有機野菜部会の部会長として、有機野菜をみんなで盛り上げていきたい。おいしい農産物を作って消費者に感謝されるのが農業の喜びです。積極的に研修生を受け入れ、有機栽培の技術だけでなくマネジメントも教えていきたいと考えています。



代表取締役
金谷 智之さん



養父市

株式会社Amnak



事業内容

米(酒米・うるち米)の生産、日本酒の製造・販売、おもちの製造・販売

おもな作物

酒米、もち米



こだわりPOINT

スマート農業を実践し、中山間地の耕地面積を増やして、地域の活性化に取り組んでいます。



自社のライスセンター

Staff Interview

三方 陽平さん(写真左)

Uターンして2020年8月に入社しました。前職は介護職で、外で体を動かす仕事に憧れていました。会社では大きな機械を操縦することができて、楽しいし、良い経験になります。実家は兼業農家ですが、独立するのではなく、ここで学んでいきたい。定年後は実家で農業します。

スマート農業で地域の活性化 実証プロジェクトの一員として参加

中山間部水田作地域でのスマート農業の実証をテーマに、養父市・京都大学・ソフトバンクなどで作る共同体の一員として、2019年から農林水産省のスマート農業実証プロジェクトに参加している「Amnak(アムナック)」。食味や収量を稲刈りしながら測定できるコンバインなど、AIを搭載した農機具を導入することで、効率化・コスト削減を目指します。取締役会長・藤田彰さんは地域の活性化に注力。栽培する酒米「五百万石」を地元の酒蔵に委託して、自社ブランドの日本酒「能座ほまれ」を醸造。オール但馬の日本酒として海外にも輸出しています。

DATA

所在地 〒667-0142
養父市建屋463-1
TEL 079-666-0227
FAX 079-661-9030
HP <http://www.amnak.co.jp/>
設立 2015年10月
従業員数 社員9人、季節雇用10人



Top Message

持続可能な中山間農業の 企業モデルを構築

生産から収穫、精米まで一元管理するため、2017年ライスセンターを整備しました。ICT、AIを駆使した機械化により、収益を上げる仕組みを作りたいと考えています。2024年からは農福連携にも取り組んでおり、持続可能な中山間農業を実践し、耕作面積を広げて地域の活性化に役立ってほしいと、期待されている会社です。



取締役会長
藤田 彰さん



養父市

株式会社トヨー養父農業生産法人



ハウス内ではトマトに適した栽培環境の自動制御を行います



太陽光も最大限取り入れ、完熟した高糖度トマト

事業内容

農産物の生産、加工、販売

おもな作物

トマト: プライベートブランド「こいとま」
として販売



こだわりPOINT

甘味と酸味のバランスが良く、「トマト本来の風味」を追求しました。食べた瞬間に「美味しい!」と思っただけのトマトです。



トヨーバイオメタンガス発電所(写真奥)とハウス

環境制御システムが整った広大なハウスで 年間通じてトマト「こいとま」を栽培

「トヨー養父農業生産法人」は、45アールの広大なハウスでトマトを栽培しています。9月上旬に苗を植え、11月から翌年6月まで高糖度フルーツトマトを収穫。プライベートブランド「こいとま」として、地元をはじめ京阪神、東京に出荷しています。ハウスでは温度・湿度・CO₂・日照・灌水・給液などトマトに適した栽培環境を自動制御。寒さ厳しい養父市の冬期も栽培・出荷を可能にしています。隣接する「トヨーバイオメタンガス発電所」の再生可能エネルギーや、メタン発酵時に排出される消化液を一部肥料として利用する循環型農業を行っています。

DATA

所在地 〒667-0111
養父市大藪1159

TEL 079-666-8288

FAX 079-666-8289

HP <https://www.toyo-yabufarm.jp/>

設立 2015年12月

従業員数 社員2人、パート6人



Top Message

これからの新しい農業が 体験できる職場です

2015年に試験農場を始め、2019年7月からこのハウスが稼働しています。売上高は2025年に5000万円を達成しています。新しい農業に興味がある人に適した職場です。グループ会社なので違う仕事をする機会もあるし、新しい農場の展開も考えていますので、力を発揮する場が増える可能性も。力をつけてもらうための研修制度もあります。



アグリ事業部 農場長
山口 和人さん